

滋賀の縁ニュースレター

～つながる・広がる・縁の輪♪～

気づきシート版 第2号

滋賀の縁創造実践センター
発行日：平成27年8月24日(月)

今回のニュースレター～気づきシート版～では、7月9日(木)・10日(金)に開催された「滋賀の縁塾」の湖東会場、湖北会場での様子をお伝えします。

湖東会場では18人、湖北会場では15人の様々な分野、職種の方が参加しました。

●研修のスケジュール●

講義：新・地域包括ケア「施設・在宅専門職」の役割と課題
～滋賀の縁創造実践センターがめざすもの～

<講師>同志社大学社会学部教授

滋賀の縁創造実践センター副代表理事 上野谷加代子先生

演習：「あなたの思う正しさ」「私の思う正しさ」を認めるのって難しい?!
～「気づきシート」の事例を使用した対話型演習～

<講師>同志社大学社会学部准教授 野村裕美先生



上野谷先生からは、地域包括ケア、地域に根ざした生活支援、そして滋賀の縁創造実践センターのめざす滋賀の福祉の姿について講義していただきました。



上野谷加代子先生

～講義の様子～



野村先生の演習では、平成26年度に会員の皆様に記入していただいた「気づきシート」を使用して、グループに分かれて、関わっている専門職、利用者、家族など様々な立場になり共感マップ作りをしました。事例提供者の方が感じている問題意識に共感し、登場人物それぞれを【認めていく共感】と【乗り越えていく知恵】を出し、よりよい連携はどうすればよいのかを考えました。



野村裕美先生

☆使用した事例は、
昨年度、気づきシートで最も多くの記入のあった、“要介護高齢者と子どもの世帯で双方に支援が必要”なケースです。要介護高齢者を担当している介護支援専門員等の方から記入がありました。



共感マップ作りの様子

～事例提供者（介護支援専門員）の感想～
事例を提供するのにプレッシャーがあり、縁塾って何するところ？とっていました。先生に自分のいる状況を視覚化してもらい、頭の中で整理ができました。また、日常の業務を正しいか間違っているかで判断していたので、先生の「正しいか間違っているかではなく、その時に精一杯やったか」という言葉で気が楽になりました。事例を提供できて、参加できてよかったです。こういう流れの事例の取り上げ方だと、提供する人のプレッシャーが少ないと思うので、他のケアマネジャーにも参加をすすめたいです。



※湖北会場での研修では、米原市では今年の4月から「障がい者相談支援センター ほたる」という障がいのある方の相談支援事業所が設置された、という情報の発信もありました。

参加者からいただいた意見

- 多職種連携は言われて久しいが、実際のところはなかなか上手いいかない場合がある。その難しさを改めて認識でき、意義を確認できた。
- 様々な立場になって気持ちを表現する共感マップは初めてだったが、興味深かった。
- この内容は半日では短過ぎると思う。
- 参加者の職種にかたよりがあったので、もっといろんな分野の職種の参加があれば、より実りのある、今後の業務に生かせる研修になると思う。
- 多職種連携のネットワーク作り、活用の方法も学べればと思う。
- 事例に出たような世帯の問題は多く、困難事例は一つの事業所、担当者だけの対応は無理で、情報を共有して関係機関で世帯について一緒に考えていくことが必要である。

参加者の皆さん、ふりかえりシートの記入ありがとうございました。
いただいた意見は、今後の縁塾の参考にさせていただきます。



参加者募集中です！

＜滋賀の縁塾 今後の開催予定＞

9月15日(火) 湖南会場 県立長寿社会福祉センター 13:30～16:00
※大津、甲賀、東近江会場では10月以降の開催予定です



※縁塾に関するお問い合わせは、077-569-4650
滋賀の縁創造実践センター事務局までご連絡下さい。